

児 plasma と同様に, control 児の plasma の反応においても同様の形成物を認めている。

しかるに, 彼らの論文中には control 児の plasma を用いたときの微細反応物中に溶連菌菌体が存在しないこ

との証明が明記されておらず, この点を今後は明らかにされるべきと考えられた。

1) 上野忠彦・松見富士夫:小児科臨床, 31: 747, 1978。

## MCLS 患者における血液培養成績の検討

日赤医療センター小児科 川 崎 富 作  
柳 瀬 義 男  
神奈川衛研細菌病理部 宮 本 泰

### 目 的

上野, 松見ら<sup>1)</sup>は MCLS 患者血中より溶連菌菌体の存在を証明したと報告したが, 今回我々は, L 型菌も含めて MCLS 患者の血液培養を試み, 彼らの仮説について検討した。

### 材料と方法

対象には1979年7月より12月までに発症した typical な MCLS 16例を選んだ。入院施設の内訳は, 横須賀市聖ヨゼフ病院6例, 共済立川病院1例及び日赤医療センター9例である。使用培地は, 溶連菌の親株検出用として Columbia 培地 (BBL), L form 検出用として Modified Edward 培地及び Modified Adler 培地を使用した。患者16例中14例は10病日以前の有熱期に採血し, 培地に接種した。

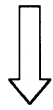
### 結 果

皮膚の消毒にエタノールあるいはクロルヘキシジン, エタノール使用例では連鎖球菌3 (Str. viridans—1, Str. sanguis II—1, Str. mitis—1) 及び未同定菌1が検出されたがこれは不十分な皮膚消毒の可能性が考えられた。消毒をヨードチンキに変えてからは, 連鎖球菌の検出はみられず, peptococcus 1例, petococcus とグラム陰性桿菌の同時検出1例のみであった。またL型菌は検出されなかった。

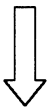
### 考 察

以上検出された菌7株は, 皮膚よりの contamination の可能性が考えられA群溶連菌は検出されなかった。

1) 上野忠彦, 松見富士夫:小児科臨床, 32: 2119, 1979。



**検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



目的

上野,松見ら 1)は MCLS 患者血中より溶連菌菌体の存在を証明したと報告したが,今回我々は,L型菌も含めて MCLS 患者の血液培養を試み,彼らの仮説について検討した。